

10月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	50	30	40
平 年 並	30	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成19年9月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

要 素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	24.9	27.5	22.7	162.9	168.1
宮古群島(宮古島)	25.1	27.7	23.2	174.2	151.3
八重山群島(石垣島)	25.6	28.4	23.5	183.2	157.5

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

10月の発生予報概要

作 物	病 害 虫 名	発 生 量		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
水稻(2期作)	いもち病 斑点米カメムシ類	- -	- -	並 やや多
タンカン	かいよう病	並	-	-

その他注意すべき病害虫等

本文中では (白丸)にて表記

作 物	病 害 虫 名 等	地 域		
水稻(2期作) さとうきび	いもち病 メイチュウ類 サキシマカンシャクシコメツキ 野そ	沖縄群島 沖縄群島	宮古群島 宮古群島	八重山群島 八重山群島
マンゴー にがうり(施設) トマト(施設) 施設野菜	チャノキイロアザミウマ タバココナジラミ(シルバーリーフコナジラミ) トマト黄化葉巻病 植え付け時の圃場管理	沖縄群島	宮古群島	八重山群島 八重山群島

10月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

1 水稻(2期作)

いもち病の防除対策

- 9月の調査の結果、本島北部の葉いもちの発生圃場率は48.7%、発病株率は9.6%(前年0.6%、例年1.8%)と例年より高かった。
- 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- 稲体の耐病性は穂ばらみ期～出穂期に最も弱く、葉いもちから穂いもちへの拡大を防ぐため、この時期の防除に重点を置く。

2 さとうきび

メイチュウ類の防除対策

- メイチュウ類による芯枯れ茎率は0.3%(前年0.4%、平年0.4%)と平年並であった。
- ふ化した幼虫は、夏植された苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせる。
- 夏植の生育初期の加害による芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした重点防除を行う。
- 植付時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

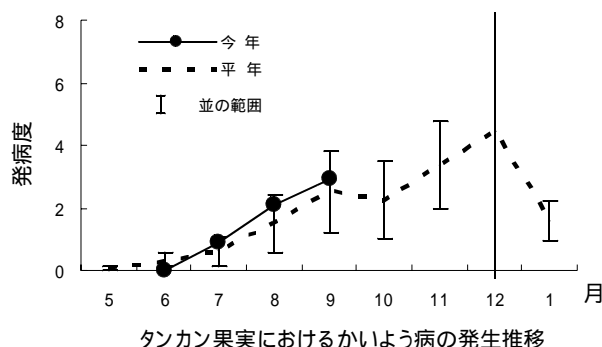
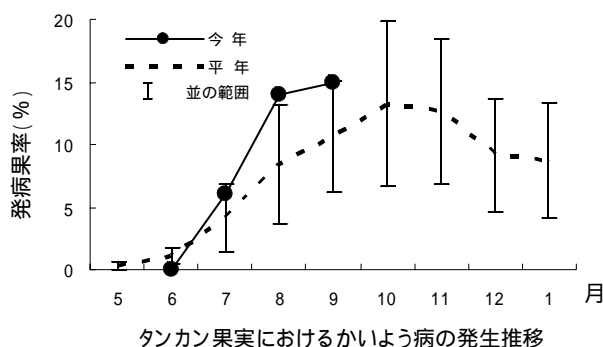
3 タンカン

(1) かいよう病

発生程度 : 並

予報の根拠

9月中・下旬の調査の結果、果実における発病果率は15.0%(前年14.4%、平年10.6%)と平年並で、発病度は2.9(前年2.4、平年2.5)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。
- ミカンハモグリガの穿孔から病原菌が侵入しやすいので、同虫の防除を徹底する。
- 台風の前後に薬剤防除を行う。

4 トマト(施設)

トマト黄化葉巻病の防除対策

- a 9月中旬、本島南部で本病の発生が確認された。
- b 発病株は感染源となるため、早急に抜き取る。抜き取った株は必ずビニール袋等に入れて密封処分する。
- c 本病の媒介虫であるタバココナジラミ(シルバーリーフコナジラミ)の防除を徹底する。
- d 平成19年度技術情報第2号(平成19年10月1日付け)参照。

平成19年度宮古群島病害虫発生予報第7号(10月予報)

10月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	50	30	40
平 年 並	30	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成19年9月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

要 素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	25.1	27.7	23.2	174.2	151.3

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

10月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

宮古群島

1 さとうきび

メイチュウ類の防除対策

- a 9月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は133頭(前年144頭、平年281頭)と平年並であった。
- b 新植圃場では、メイチュウ類による芯枯れ被害はみられなかった。
- c ふ化した幼虫は、夏植された苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- d 夏植の生育初期の加害による芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした防除を行う。
- e 植付時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策

- a 9月下旬の調査の結果、本種による芯枯れが多く見られた。
- b 幼虫はサトウキビの地下部(根・根帯・茎)を加害する。
- c 生育初期に加害されると、欠株や芯枯れをおこす。
- d 植付時および培土時に薬剤を施用する。

2 マンゴー

栄養成長期におけるチャノキイロアザミウマの防除対策

- a 9月下旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマが多発していた。
- b この時期の不要な新梢は、本種の発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- c 本種は雨に弱いことから、灌水を兼ねて動噴で洗い流すと密度低減につながる。
- d 1回の薬剤散布で効果が出にくい場合は、1週間程度の間隔で数回行う。
- e 薬剤抵抗性が発達しやすいことから、同系統薬剤の連用を避ける。

3 施設野菜(果菜類)

植え付け時の圃場管理について

- a 冬春期の野菜の植え付け時期は、ウイルス病を媒介するアブラムシ類、アザミウマ類をはじめ、コナジラミ類等の難防除害虫の発生が多くなる。
- b 防虫ネット被覆による施設内への侵入防止を徹底する。
- c 植え付け時には粒剤を施用する。
- d 平成19年度病害虫発生予察情報第6号(9月予報)7～8頁参照。

平成19年度八重山群島病害虫発生予報第7号(10月予報)

10月の気象予報

向こう1か月間の平均気温、降水量、日照時間の予想確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	30	40
平年並	30	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成19年9月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平均値

要素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	25.6	28.4	23.5	183.2	157.5

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

10月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

八重山群島

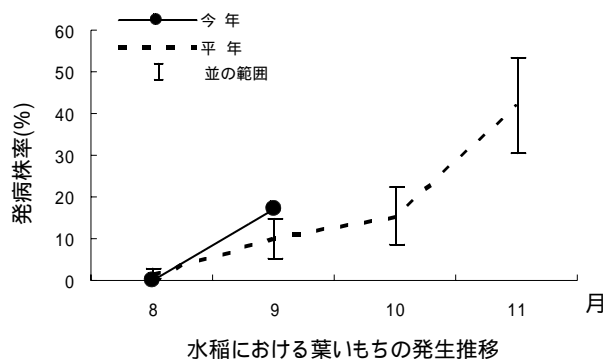
1 水稲(2期作)

(1)いもち病

発生程度 : 並

予報の根拠

- 9月下旬の調査の結果、葉いもちの発病株率は17.3%(前年20.2%、平年10.2%)と平年よりやや高かった。
- 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年より少ない確率が40%の見込みで、本病の発生は平年並で推移すると考えられる。



防除上注意すべき事項

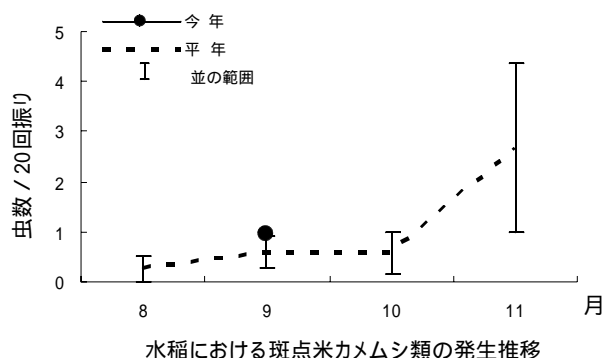
- 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- 稲体の耐病性は穂ばらみ期～出穂期に最も弱く、葉いもちから穂いもちへの感染拡大を防ぐためにも、この時期の防除に重点を置く。

(2) 斑点米カメムシ類

発生程度 : やや多

予報の根拠

- 9月下旬の調査の結果、捕虫網によるすくい採り虫数は20回振り当たり0.9頭(前年1.7頭、平年0.6頭)と平年並であった。
- 気象予報によると向こう1か月の平均気温は平年より高い確率が50%の見込みで、本類の発生が助長されやすい。



防除上注意すべき事項

- カメムシ類は畦畔や農道の雑草地に生息しており、出穂後水田内に移動するため、定期的な除草などにより密度を抑える。
- 出穂期前後の除草はカメムシ類が水田に移動するので極力控え、やむを得ず水田周辺を除草する場合は、刈り取り後直ちに薬剤防除を実施する。
- 薬剤防除は、基本として穂揃期とその7～10日後の2回実施する。

2 さとうきび

メイチュウ類の防除対策

- 9月下旬の調査の結果、新植圃場での芯枯れ茎率は0.2%(前年0.1%、平年0.6%)と平年よりやや低かった。
- 9月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺数は31.0頭(前年51.0頭、平年21.9頭)と平年並であった。
- ふ化した幼虫は、夏植えされた苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 夏植えの生育初期の加害による芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- 植付時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し、均一に施用する。

野その防除対策

- 9月下旬の調査の結果、被害茎率は0.1%(前年0.1%以下、平年0.3%)と平年並であった。
- 台風12号により倒伏被害が発生した圃場や例年食害が多く見られる地域では、薬剤防除を徹底する。
- 地域で一斉に防除することで、より防除効果が高まる。

3 マンゴー

栄養生長期におけるチャノキイロアザミウマの防除対策

- 9月下旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマが多発していた。
- この時期の不要な新梢は、本種の発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- 本種は雨に弱いことから、灌水を兼ねて動噴で洗い流すと密度低減につながる。
- 1回の薬剤で効果が出にくい場合は、1週間程度の間隔で数回行う。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいことから、同系統薬剤の連用を避ける。

4 iga(施設)

タバコナジラミ(シルバーリーフコナジラミ)の防除対策

- a 9月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭以下(例年0.3頭)と例年よりやや少なかったが、一部の施設で多発生が見られた。
- b 多発すると、排泄された甘露にすす病が発生し、光合成を阻害したり果実の汚れを引き起こす。また、防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- c 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- d 前作の残渣は施設内で枯らし、本種の発生が無くなってから施設外に持ち出し処分する。
- e 周辺雑草は発生源となるので、こまめに除草する。
- f 平成19年度病害虫発生予報第6号(9月予報)7～8頁参照。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
北 部 駐 在	〒905-0012 名護市名護4605-3(農業研究センター名護支所内) TEL 0980-51-1537 FAX 0980-51-1538
宮 古 駐 在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40 TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八 重 山 駐 在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6 TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157